初

**仕合わせの**

**幸運の時は感謝**

**不運の時は忍耐**

**真成寺**ホームページ

編集・発行

玉蓮山　真　成　寺

編　集　部　谷川久仁子

TEL・FAX　　**0765-22-2268**



第２６３号

令和６年２．１

　 （毎月１日発行）

　　**令和の大地震**

　　　　　　　　　　住職　谷川寛俊

　　元日のめでたさも吹き飛ぶ波乱の辰年の幕開けでした。

　　早朝からの初詣、特別祈祷も一段落した午後４時過ぎ、能登半島地震が起きました。

　かつて富山県では経験したことのない「震度５強」グラグラグラと大きな揺れで、お位牌壇に祀られていたお位牌がバタバタと落下し、本堂内の瓔珞（ようらく）など飾り物が大きく揺れ、今にも外れそうな気配、更に大きなローソク立て、両脇の燈籠も落下寸前、初めての体験で一瞬どうすればよいのか、時が止まったかの錯覚さえ覚えました。

　　その後、散乱した仏具などを皆で整理整頓、清掃をしている時に、津波警報の放送が入り、皆避難！

　　高台へ向かう車で大混雑。

　避難所に指定されている学校等に家族と身を寄せました。

避難所では毛布一枚、水、ビスケットが配られました。副住職、娘たちは配布のお手伝い等させて頂いていました。

防災訓練も毎年地域で行っていますが、いざ災害に直面すると誰もが落ち着いて想定通り行動出来ないものです。

避難所に必要なものが用意されているのか、物資を届ける道路は安全か、家が倒壊した人の暮らしをどう支えるか、被災した感覚をはっきり覚えているうちに本当に必要な備えは何かをしっかりと考える機会にしなければなりません。

阪神淡路大震災や東日本大震災など

の大規模災害を教訓に、各地の公官庁その他の建物などは、鉄骨の補強材が設けられているそうです。

翌日被害状況を調べに外に出てみると、墓所の入り口の大きな燈籠が倒れ、墓石が二カ所落下、ずれや扉の倒壊三カ所、本堂、庫裡の壁の亀裂、山門前の石壁一部落下など、あちこちに被害が出ていました。

「庭が揺れて波打つ」「経験したことがない」「生きた心地がしなかった」など、震度７だった能登の人達の声です。ストーブの上のやかんの湯がかかり亡くなった子供さんもいました。

石川県では今も２２人（1/25現）の安否がつかめず、地元富山県を含め多くの人が避難所に身を寄せています。

自然災害大国の現実を体験させられ、改めて防災と向き合う機会にしたいものです。

被災された皆様には心からお見舞いを申し上げ、亡くなられた尊い御魂（みたま）に毎朝、ご供養を申し上げております。　　　　　　　　　合掌

　